

金沢大学医学部十全同窓会沖縄支部紹介



金沢大学医学部十全同窓会沖縄支部幹事（安立医院） 安里 公

金沢大学医学部十全同窓会沖縄県支部総会及び懇親会は毎年3月の第一土曜日に開催されております。会員総数42名ですが、例によって日常診療に多忙を極め、各々、日程調整が困難となり当日出席者は20名程度です。会員は最古参でも昭和31年卒から、最若年は平成15年卒となっております。例にもれず逆ピラミッドの高齢化集団となっておりますが、県内の医療界では中枢部、中堅層を占めるに至っております。

今年も首里城下、ホテル日航那覇の勸会の間で開催されました。当日は簡単な支部長あいさつがあり、幹事より事務連絡、人事動向、新人の紹介、あいさつ等があります。当日のメインイベントは「特別講演」であります。数年来、毎年母校より理事の先生にお出頂き、母校の現状等をお話頂いております。かなりのインパクトがあり、あの時代、学生時代のアカデミズムにタイムスリップしてしまいます。産地直売の新鮮で香りのある出前授業か講義か講演か御講話でなかなか味のある雰囲気醸し出して酔ってしまいます。

今回は十全同窓会理事（会報編集委員長）の山本博教授（旧生化学）による御講演を拝聴しました。山本先生は①四校開学120周年祭のさ

わりのところを御紹介して下さいました。②初代生化学教授（後に学長）須藤憲三先生の業績と人物を御自分で資料を発掘して一作品として発表して下さいました。その中で、明治時代のドイツ留学中の一葉のモノクロ写真は技術的にも驚異に値し、又芸術的にも品位ある格調の高いものでした。更には③糖尿病の血管病変の発症機構について御自分のお仕事を中心として最先端の知見を解り易くさわやかに御説明して下さいました。AGEによる血管症の発症・進展の機序を独自の理論で証明するものでした。

ところで当日は山本教授を中心として奇遇にも、この席で3名の同期生が全く久しぶりに再開するという不思議な機会ともなりました。

というのはY氏はかの地、能登の方で縁あって沖縄公立久米島病院に赴任されております。I氏は当地、沖縄の方で金大を卒業され帰郷し、現在では市立病院の要職にあります。この御三方がホテル20階のラウンジに席を移し、那覇の夜景を眺めながら学生時代に戻り、昔話に花が咲いたとの事を後日伝聞した次第です。これも金沢が取り持つ縁ということになるのでしょうか。

来年の3月に再開を期して、三三五五と散会しました。



金沢大学医学部十全同窓会沖縄県支部総会及び懇親会